

## 研究協力者報告

### 平成29年度「肝炎等克服政策研究事業の企画及び評価に関する研究」班 広報活動報告

研究協力者

国立感染症研究所 感染症疫学センター客員研究員 布施 晃

#### 【平成29年度の活動内容】

本研究事業では、一般向けのアウトリーチ活動を推進するために、感染研一般公開(戸山庁舎、村山庁舎)、知の市場・連携市民セミナー(戸山庁舎)、市民セミナー(村山庁舎)および見学研修(中高校生)のイベントに参加し、企画・運営に携わった。

#### 1 感染研一般公開

##### 1-1 「知って肝炎」プロジェクトとの連携イベント:「肝炎クイズ」大会

感染研では毎年秋に戸山庁舎で一般公開を行い、パネル展示、実験室見学、体験プログラム、ゲーム、講演等を通して、一般人の感染症の理解増進と関心の向上を試みている。

本年度9月29日に開催された感染研一般公開のプログラムの一つであるクイズ大会では、本年も「肝炎」を取り上げ、本省肝炎対策室が中心となって進めている「知って肝炎」プロジェクトと協働して啓蒙イベントを行った。今年度は「知って、肝炎プロジェクト」のスペシャルサポーター、元スピードスケート選手の清水宏保氏の参加を得て、「肝炎クイズ大会」を開催した。また、佐賀大学医学部所有のゆるキャラ「肝ちゃん」もクイズ大会に参加し、会場の盛り上げに貢献した。

このクイズ大会では一般来場者に肝炎とその対策について、清水氏が質問を出し、肝ちゃんが正解を示し、感染研脇田副所長が解説する役を分担したが、来場者にはこの3者の軽妙なやり取りを楽しみながら、肝炎対策を理解してもらった。

また、2年目を迎えた村山庁舎一般公開(7月29日)でも、ゆるキャラ「肝ちゃん」による肝炎の啓蒙活動を行った。

##### 1-2 展示パネルでの肝炎の解説

村山一般公開ではB,C型肝炎とともにA,E型肝炎を含めて、肝炎全体の理解向上のためにパネルによる解説を行った。一般公開に先立って、7月22日に、地元の団地自治会のまつりでは感染研ブースを儲けて、感染研の宣伝とともに、肝炎等の感染症の話しを楽しみながら勉強出来る一般公開の宣伝を行い、集客に努めた。

#### 2 感染研見学・研修での一般向け講義

感染研では一般人(中高生、大学生、社会人)の感染症に対する理解を深めるために、毎年10~20件前後の見学・研修を行っている。講義の中では、感染症全般について説明とともに、近年はウイルス性肝炎の項目を取り入れ、基礎知識の普及に努めている。また、その中で肝炎等克服政策研究事業の成果内容を踏まえつつ、肝炎対策を説明し、検査と治療推進のための啓発を行った。

#### 【活動成果】

感染研一般公開(戸山)での、有名スポーツ選手の参加したイベント(肝炎クイズ大会)では、事前にポスター、インターネット等で宣伝を行い、幅広い来場者の集客に成功した。また、同時にゆるキャラ「肝ちゃん」(佐賀大学医学部大学製作)も、戸山庁舎と村山庁舎の一般公開の会場内に配置し、当日、参加した多数の子供ずれのファミリー等の関心を惹く事が出来た。また、肝炎の情報を提供するために儲けた、村山庁舎でのパネル展示コーナーでは、研究者による肝炎の懇切丁寧な説明が来場者に好評であった。

感染研の見学・研修における講義による啓発活動では、受講前に全く知識のなかった中高校生の肝炎に対する関心が高まり、研修後に検査・治療を家族等に推奨する意欲を高める役割を持たせる事が出来た。本研究事業の一般向けプロモーションとして、これらの活動は大きな効果を上げた。

## 【イベント等の開催概要】

### 1 一般公開

#### 1-1 村山庁舎一般公開

期日：平成29年7月29日（土曜日）

プログラム：ゆるキャラ「肝ちゃん」による啓蒙、パネル展示：話題の感染症「肝炎」

来場者人数：283人

#### 1-2 戸山庁舎一般公開

期日：平成29年9月30日（土曜日）

参加人数：431人

プログラム：肝炎クイズ大会

パネル展示：ワクチンで予防出来る感染症：A型、B型肝炎

### 2 中高生見学研修

対象： 中学：富ヶ谷中（4月26日）

高校：お茶大付属（5月12日）、修猷館（8月2日）、春日部（8月24日）

姫路東（10月3日）、大田女子（10月25日）、弘学館（10月27日）

参加人数：合計91人

## 【成果物（ポスター、パンフレット等）】

- 1) 戸山庁舎一般公開ポスター（添付資料1-1）
- 2) 戸山庁舎一般公開プログラム（添付資料1-2）
- 3) 村山庁舎一般公開ポスター（添付資料2）
- 4) 村山庁舎一般公開プログラム（添付資料3）
- 6) 戸山庁舎一般公開開催案内：感染研ホームページ（添付資料4）
- 7) 開催案内厚生労働省メールニュース「感染症エクスプレス」  
平成29年月9月1日号～29日号まで 5回（添付資料5）、
- 8) 村山一般公開 朝日新聞掲載記事（7月25日）（添付資料6）
- 9) 戸山一般公開 肝炎パネル展示資料（添付資料7）
- 10) 村山一般公開 肝炎クイズ メディア向け報道資料（添付資料8）
- 12) 活動の様子（添付資料9）

## 一般公開・肝炎クイズ大会



## 中高生見学研修での講義風景



## 武蔵村山市地元団地祭りで村山一般公開の宣伝活動



---

肝炎政策研究の動向把握のための情報収集  
国立感染症研究所 企画調整主幹 山内和志  
国立感染症研究所 ウイルス第2部長 村松正道（研究協力者）

肝炎政策研究に関する国内動向の調査が目的で平成30年3月20日に石川県金沢市を訪問した。研究協力者である村松正道 国立感染症研究所ウイルス第2部長が同行した。

朝8時半からの金沢大学医学部の島上医師のご案内で、初めは金沢大学医学部附属病院の金子周第一内科教授と面会した。金子教授には石川県内の肝炎診療連携システムの全体像、自身が尽力された創設の歴史についてお話頂いた。肝炎診療連携の仕組みを作るためには、各々のステークホルダーの説得が重要であり、材料となるエビデンスを探し、説明を繰り返し行ったとのこと。肝炎検査陽性者フォローアップが大事であることに行政が納得してもらったことがポイントとなった。

石川県の肝炎診療連携は、自治体である県と市町、大学、医師会が相互に連携して対策に取り組んでいる。前述の陽性者のフォローアップに大きな力を注いでいる。医療機関や自治体の検診で発見された検査陽性者で同意を得た者を肝疾患専門医療機関の受診に繋げ、そこで年1回の検査を受けてフォローアップを受ける。その事務局を肝炎診療連携拠点病院の金沢大学医学部附属病院がつとめ、中心となって連携が回るよう調整を行っているところに特色がある。

石川県庁を訪問し、肝炎対策を担当する相川健康推進課長らと県の業務について意見交換を行った。県は年1回肝炎対策推進協議会を開催しており、そこで肝炎ウイルス検査、肝炎治療促進、診療連携、就労支援事業、研修事業、コーディネーター養成等の事業に関して協議を重ねている。参加メンバーは肝炎医療関係者であったが、本年度から患者会の代表が入った。フォローアップを促進するため、肝疾患専門医療機関の選定基準について検討できないか、非専門医療機関への逆紹介を増やすことを考えてはどうか等、診療連携システムについて意見交換を行った。

国立病院機構金沢医療センターでは鷓浦院長、太田消化器部長を訪ね、病院におけるフォローアップシステムについて説明を受けた。院内では、電子カルテを使った肝炎ウイルス検査による陽性者のアラートシステムが稼働している。診療科からの専門医への紹介は増えた一方で、入れ替わり新規職員が増えているので、新たにシステムに関する講習を企画する必要があるとのこと。また、医療ソーシャルワーカー等の肝炎コーディネーターが4名配置されており、肝炎患者に対して行政による支援制度の説明を行っている。

石川県立中央病院で岡田副院長には行政から委託された検診事業の実施者である医師会の立場から説明があった。これまで成果が得られた検診が、新規感染者の発見を促進するためには、肝炎について他診療科、クリニックを含め理解を得る取り組みが更に必要であること、等のお話が伺えた。

金沢市の保健局では検診事業陽性者をフォローアップに繋げる努力が保健師によって行われた。肝炎検査結果についてお話することの困難さに直面することもあった。高齢化が進んでいく中でフォローアップの同意を得られない患者にどう対応するかは、課題となった。また、次年度より妊婦検診の機会に発見された感染者（母親）のフォローアップの取り組みを開始するとのことであった。

システム整備が進められてきた背景に肝炎診療連携拠点病院である金沢大学病院のリーダーシップの影響は大きい。フォローアップに成果を上げてきた本システムであるが、新規の感染者を発見するためにアプローチをどうするか、検討課題になり得る。一方で、肝がん、肝硬変への進行例に向けた対応も重要であると考えられた。